



和敬会だより

第152号

発行所
医療法人社団 和敬会
谷野 呉山 病院
富山市北代5200
<https://www.wakeikai.com>

発行人
理事長 谷野 亮一郎



日本医療機能評価機構
認定番号 JC1435 号

発行日 令和7年8月25日

いっちゃん!リレーマラソン2025に参加しました。
みんなの力をひとつに!



医療法人和敬会

基本理念

「希望に満ちた人生の回復を目指して 私たちはあなたと共にある」

基本方針

- ・専門職がチームで関わり、あなたの価値観を大切に医療を提供します。
 - ・常に研鑽に努め、安全で質の高い医療を提供します。
 - ・広く情報公開に努め、あなたと共に考える医療を提供します。
 - ・精神科救急体制の充実や社会資源との連携を図り、地域に根ざした医療を提供します。
 - ・環境に配慮し、地球にやさしい医療を提供します。
 - ・精神疾患に対する偏見の払拭、権利擁護に努め、あなたが自らの強みを発揮できる社会づくりを推進します。
 - ・人材育成に努め、当院に勤務する職員が自らの強みを発揮できる職場づくりを推進します。
- 私たちは基本理念を胸に抱き、健全な病院経営の下で以上の基本方針を実践します。

谷野呉山病院



職員募集専用



こちらの二次元コードから
webサイトもどうぞ。



和敬会マスコットキャラクター
ワケちゃん

『まんが道』

理事長・院長 谷野 亮一郎

今、映画『鬼滅の刃 無限城編』が空前の大ヒットを記録しています。NHKの朝ドラでは、『アンパンマン』の生みの親として知られる漫画家・やなせたかし先生をモデルにした『あんぱん』が放送中。そして藤子不二雄[Ⓐ]先生原作の不朽の名作『笑ゥせえるすまん』は、秋山竜次さんを主演に迎えて実写ドラマ化されるという賑わいぶり。まさに、今こそ“漫画”という文化が再び社会の真ん中で注目を浴びていると言えるでしょう。

この流れに乗せて(こじつけて)今回は、私が心から愛してやまない漫画について、思うままに語らせていただきます(笑)



日本の漫画界は、我が国の文化土壌が育んだ、極めて豊穡かつ特異な創作世界です。唯一無二の作風をもつ漫画家たちが群れ立ち、個性の火花を散らす様は、まさに創造のつぼ。ですから、「私の一押し漫画家は誰か」と問われても、簡単に一人に絞ることなどできません。

たとえばー

『漂流教室』『わたしは真悟』『14歳』など、魂の深奥に訴えかける椋岡かずお先生。

『うすまき』『人間失格』といった作品で、人間の業と恐怖を独自の筆致で描く伊藤潤二先生。

『エクソスカル零』『シグルイ』『劇光仮面』など、狂気と美を紙一重で編み上げる山口貴由先生。

未だそのマニャクな人気は衰えず、舞台化・映画化もされている『ライチ☆光クラブ』、その耽美と反逆の匂い立つ世界を創り上げる古屋兎丸先生。そして、言わずと知れた『ジョジョの奇妙な冒険』の荒木飛呂彦先生一。

これだけの名だたる作家陣を列挙するだけで、軽いめまいを起こし、異臭が漂ってきます(笑)

それでもあえて、今の私が“ゼロ押し”―「一押し」のさらに上を行く評価を贈りたい漫画家を挙げるなら、まずは、徳弘正也先生。『ジャングルの王者ターちゃん』で知られる先生ですが、ぜひその後の作品を追っていただきたい。『狂四郎2030』『昭和不老不死伝説バンパイア』『もっこり半兵衛』といった作品群には、社会風刺と人間賛歌が混在し、笑いとエロスと涙と哲学が、まるでカオスのように同居しています。子どもに薦めるには覚悟がいりますが(これまで紹介した作品のほとんどがそうですが…)、唯一無二の作品群です。

そしてもう一組は、末永裕樹先生・馬上鷹将先生。『あかね囃し』、この作品には、古典芸能・落語を、漫画という媒体に見事に落とし込み、読者の胸を打つ力があります。「話芸」を「絵」で表現するという、矛盾に挑むその気概と、描写の巧みさには心から敬意を表したい。

ああ、これほどに奥深く、そして多様な我が国の漫画界。その混沌と創造のエネルギーは、なんとも“度し難い!”

生活支援センター 喫茶コーナーを再開しました

令和7年5月より、生活支援センターで喫茶コーナーを再開しました。コロナ禍に3密を避けるために休止して以来になります。当面、開店時間は火・木曜日の正午から午後2時までと、第3日曜日の午後2時～午後4時となります。暑い時期なので、メニューはアイスコーヒーとアイスティーの2種類を1杯100円で準備しております。

いつものお見舞い場所を変えて患者さまと一緒に過ごしたり、仲間とじっくり話したりするのに大変良い場所です。

利用には登録(無料)をお願いしておりますのでご協力ください。

生活支援センター 浜守





ワケちゃんの 栄養課・厨房 探検ツアー



当院の給食は直営方式にて運営しています。栄養課の管理栄養士が献立を考え食材を発注、調理師・調理員が下処理から調理、盛り付け、配膳、下膳、洗浄と、食事に関わる全てを一貫して行っています。

直営の良いところは、当院の患者さんや職員に合わせて調理できること、意見を反映できることです。また、作った人の顔が分かること、食べた人の感想を直接聞くことで、食を通じたコミュニケーションをとることができます。

最近の取り組みとしては、献立にあさりを頻繁に使うことでミネラル強化を行っています。

栄養課長 角田

下処理室

当日の果物、約200人分を1人で切ります。この日はキウイフルーツ約90個。胃潰瘍食はバナナです。

当日夕食～翌日昼食までの食材を切り込みます。ほぼパートさんが行います。

すごくたくさんの材料を、みんなすごいなー！



主加熱室

回転釜で副菜の炒り煮を作っているところ。昼食時は、約280人分を作っています。夏は、ここが一番暑い！



おいしそう！
ボクも食べたいな～



盛り付け

この日は、ビビンバ丼！
ご飯⇒ナムル⇒肉炒め⇒炒り卵の順に盛り付けます。



配膳

栄養補助食品をセットしています。

接遇教育講師をお招きして研修会を行いました

7月9日に開催した院内研修会にて、医療機関専門の接遇教育講師 赤尾英子先生にお越しいただき、～「この病院にかかってよかった」の言葉が聞きたくて…患者さまに信頼され、選ばれる病院づくりは接遇から～と題してご講演いただきました。

和敬会は、令和7年度目標として「接遇は言葉遣いから～接遇を誇る法人づくり」を掲げています。職員の関心も高く、当日は100人を超える参加がありました。

講義では、言葉遣いだけでなく表情・態度・身だしなみなど非言語コミュニケーションの大切さや、職員一人一人が組織の看板を背負って舞台に立っているという自覚が必要だと聞き、身が引き締まる思いがしました。



特に、「接遇次第で患者さまの痛みは増したり和らいだりする」「良い接遇は、患者さまの心を支えていく機能、意欲、治癒力を引き出す力につながる」という先生の言葉は、大変心に響きました。

赤尾先生の明るくはつらつとした講義に元気をいただき、これまで以上に「接遇」を意識して業務に取り組みたいと感じました。



院内研修委員会

● 法人の動き ●

月	日	事項
5	14・30	春季職員健診
5	20	生活支援センター喫茶コーナー再開
6	11	職員総会
6	25	和敬会理事会
7	9	院内研修特別講演会（接遇）
7	14～19	患者満足度調査

紙面に掲載されている患者さまの写真につきましては、掲載に際して、ご本人または保護者のご了承を頂いております。

編集後記

7月から全国的に記録的な猛暑です。富山でも猛暑に加え梅雨にほとんど雨がなく、水不足による水田への悪影響が心配されました。かと思えば8月には線状降水帯を伴う豪雨で各地に被害が。「ちょうどいい加減」な天気がなく両極端な空模様には、「いいかげんにしろ」と言いたいこの頃です。

(志)